

大柏川流域の「水と緑の回廊（コリドー）基本計画」（第二次）

今回は、第3回水と緑の探検についての「水と緑の回廊（コリドー）」基本計画です。
従って、下記の『大柏川流域の「水と緑の回廊（コリドー）基本計画」（第一次）』の目次の内、1.の1-1・1-2・1-3・1-4・1-5、及び2.の2-1・2-2・2-3は共通部分であり、2-4地域別の現状分析・評価及び2-5地域別の計画を追加するものです。

『大柏川流域の「水と緑の回廊（コリドー）基本計画」（第一次）』の目次

1. 大柏川流域の「水と緑の回廊」の実現に係わる基本的考え方
 - 1-1 上位計画との位置づけ
 - 1-2 大柏川流域の「水と緑の回廊構想」との関係
 - 大柏川流域の「水と緑の回廊構想」（2006年2月市川市長宛に提出）
 - 1-3 大柏川流域の「水と緑の回廊」の実現への取り組みの方向性
 - 1-4 大柏川流域の「水と緑の回廊基本計画」と市民政策提案制度
 - 1-5 大柏川流域の「水と緑の回廊基本計画」の検討方法
 - 1-5-1 「水と緑」居心地資源の再発見行動 -水と緑の探検-
 - 1-5-2 「水と緑」居心地資源の分析・評価及び自然環境形成方針の検討
2. 大柏川流域の「水と緑の回廊（コリドー）基本計画」
 - 2-1 上位計画
 - 都市計画マスタープラン
 - みどりの基本計画
 - 環境基本計画
 - 2-2 計画のテーマ
 - 2-3 計画の基本方針
 - 2-4 地域別の現状分析・評価
 - 2-4-1 長田谷津・花池谷津の支線軸及び大町自然公園・大野町4丁目「水と緑の拠点」
 - 2-4-2 柏井青少年の森「緑の拠点」及び柏井調節池・大柏川第一調節池「水と緑の拠点」
 - 2-5 地域別の計画
 - 2-5-1 長田谷津等「支線軸」
 - 2-5-2 親子ふれあい農園等「水と緑の拠点」
 - 2-5-3 花池谷津等「支線軸」
 - 2-5-4 柏井青年の森・姥山貝塚公園等「緑の拠点」
 - 2-5-5 大柏川第一調節池等「水と緑の拠点」

2-4 地域別の現状分析・評価

大柏川流域の「水と緑の回廊構想」を踏まえて、4回にわたり「水と緑」居心地資源の再発見行動・水と緑の探検を行ないました。今回は第3回の探検ルート地域について、各地域の現状を分析・評価してまとめ、以下に示します。

2-4-3 わんぱくの森とその周辺の森・梨園等「緑の拠点」及びうしろ谷津・大野調節池等「支線轉曲」

第3回水と緑の探検（2007年3月実施）では、北総線松飛台駅からわんぱくの森及びその周辺の樹林・梨園等を通り、うしろ谷津・大野調節池・梨風苑を通りこさと公園まで現地で見学・調査を行い、それを後日に水と緑の検討会で分析・評価しました。

分析・課題評価基準は、1-悪い、2-やや悪い、3-普通、4-良い、5-非常に良い。

自然環境形成方針は、○—すべき、◎—特にすべき、●—緊急にすべき。

第3回「水と緑」居心地資源分析・評価及び自然環境形成の方針は表3の通りです。また、表3に基づき、この地域の保全箇所及び再生・創出箇所は別添図の通りです。

表3 第3回探検分「水と緑」居心地資源分析・評価及び自然環境形成の方針

居心地資源 項目	分析・課題項目				環境形成方針			
	重要 貴重性	生態的 居心地 度	担保性	エコアップの方向性	保全	再生 創出	管理 改善	活動 拠点
わんぱくの森とその周辺								
雨水調節池								
市川側調節池	1	1	5	調節池は一部半地下になっており、エコアップは不可能				
松戸側調節池	3	2	5	掘り込み式コンクリートブロック擁壁による調節池であり、紙敷川の多自然川づくりに合わせて、わんぱくの森と一体的に自然環境復元を実施すればエコアップの可能性あり		○	○	
わんぱくの森	5	4	4	すでに地権者の了解の下、市民による里山維持管理が始められており、大町小を中心に環境教育にも利用されている。	○		○	○

紙敷川	5	2	5	紙敷川、周辺斜面林と一体的に、将来にわたって保全が望まれる。 周辺から遊水もあり水量も多いが、生活雑排水が混入したコンクリート護岸の川で、生物の生息環境が考慮されていない。 生活雑排水を分流して、わんぱくの森側の斜面林と一体的に多自然川づくりを実施し、自然環境復元を計る。	○	◎		
周辺農地・樹林景観 農地と樹林景観	5	3	4	蔬菜園や梨園の中に周辺樹林が映えてよい景観を創っている。 市川北部の農地は地産池消からも、また樹林と一体的になった水と緑の回廊形成からも、将来にわたって保全したい。	○		○	
農地内の平地林	5	2	2	樹林としては相当荒れているが、平地林として貴重であり、今後里山管理をして生物多様性を計り、水と緑の回廊形成に役立てる。	○			
市川・松戸にまたがる周辺樹林	5	3	2	両市にまたがる樹林で、面積もあり水と緑の回廊形成には貴重な里山である。 すでに、一部伐採が始められており、早急に両市調整して保全方針を立てる必要あり。	●			○
うしろ谷津 斜面林	5	4	4	谷津の斜面林としては、大町公園(長田谷津)に匹敵するすばらしい景観を呈し、生物の生息環境としても貴重である。 谷津の西側は松戸市、東側は市川市になっており、すでに市川市側は一部買収が行なわれている。 今後は、両市調整を計り、谷津全体としての保全方針を立てることが重要です。	◎	○		○
谷津低地部	5	2	1	低地部はほとんど埋め立てられ、ほ	◎	○		○

水路と湧水	5	2	1	<p>んの一部だけ休耕田として残っている。</p> <p>すでに、漬物・鉄筋加工・廃車部品の工場や資材置場等が立地し、早期の谷津全体の総合的保全・再生・創出計画が待たれている。</p> <p>谷津の奥には、ゴミで埋ってはいるが湧水池がある。谷津の中央には松戸側からの2面張り水路が流れている。</p> <p>生活雑排水が混入しているが、比較的きれいで、今後雑排水を分流して自然水路に還元・創出して谷津全体を多様性ある生物の生息環境として還元することが重要です。</p>	◎	○	○	
休耕田と植生	5	3	1	<p>まだ、ほんの一部ではあるが、休耕田が残り、葦湿地になっている。土手には水田畦植生が残っており、これらを取り込んだ自然環境復元計画が必要です。</p>	◎	○	○	
大野調節池	5	3	5	<p>調節池は高さ2m以上の堀に囲まれている。外周は管理用道路が回っているが、門があり基本的には散策できないようになっている。</p> <p>外周道路の門は取り外し、フェンスを低くして、周囲を散策できるように改良する。</p> <p>蛇籠風な法面はそのままとし、西側堤防下の湧水を利用した水路や葦原を一部掘削して水面を再生・創出して、生物の多様性を計る。</p>		◎	○	○
梨風苑周辺 梨風苑と緑地	4	3	5	<p>風致地区の梨風苑は住宅地として管理が行き届いており、東側斜面林は緑地に指定されて管理も比較的よく、水と緑の回廊形成には台地部の梨園と共に貴重である。</p>	○		○	
中央水路	4	1	5	<p>梨風苑の中央には、うしろ谷津から</p>		○	○	

				<p>の水路が流れており、生活雑排水が混入しているがオープンな水路になっている。</p> <p>水路の断面は二重になっており、幅3.5mの中央に2面張りの水路(幅上流1.5m、下流2.0m)が通っている。</p> <p>下水道の完成を待って、水路の再生・創出計画をし、生物の生息場所づくりをする。</p>				
こざと公園	5	4	5	<p>雨水調整池を多自然型工法による街区公園として整備されている。</p> <p>やや人工的であるが、抽水植物の群落ができ、ヨシゴイ・パン・オオヨシキリの繁殖も確認され、冬季には冬鳥も飛来している。</p>			○	○

備考1：【各居心地資源の分析・評価項目】

① 重要・貴重度

生きものにとって生息・生育や移動するために、そこがどのくらい重要でかつ貴重な場所であるか。

② 生態的居心地度

生きものにとって、そこがどのくらい生息しやすい場所（居心地良い）になっているか。

③ 担保性

その場所（土地）が将来にわたって担保でき、保全することができるか。

④ エコアップの方向性

その場所の自然環境を再生や創出をして、生きものの生育生息環境をよりよく改良・改善し生態的に高めるための方策。

備考2：【自然環境形成の方針】

① 保全＝現在の環境を引き続き保っていく。

② 再生・創出＝以前の良い環境に改善し、新たに生きものの環境を作り出す。

③ 管理・改善＝管理手法を改善して、生きものの生育生息環境をより良くする。

④ 活動拠点＝生きものとふれあいや環境教育等の活動拠点にすることが出来る場所。

2-5 地域別の計画

大柏川流域の「水と緑の回廊構想」を踏まえて、4回にわたり「水と緑」居心地資源の再発見行動・水と緑の探検を行ないました。今回は第3回の探検ルートの地域について、各地域の短期・中期の保全及び再生・創出の計画をまとめ、以下に示します。

2-5-6 わんぱくの森とその周辺の森・梨園等「緑の拠点」

この地域は市川市と松戸市との市域境で、市川側は梨園の広がりの中に斜面林や平地林があり、松戸側は市川側にまたがった広大な樹林が残っています。

松飛台駅近くの「わんぱくの森」北側には紙敷川が流れ、宅地造成による2つの調整池が設置されています。わんぱくの森は地権者のご好意により、市民団体「わんぱくの森の会」がすでに里山保全活動として環境教育に取り組んでいます。

従ってこの地域は、農地（梨畑・蔬菜畑）と樹林が広範囲に残されており、「水と緑の回廊」には重要な地域となっています。

■ 短期計画

- ・大町地域の農地・樹林保全計画—政策提案参照
- ・大町北西部樹林地の保全計画—政策提案参照
- ・わんぱくの森里山保全・管理計画

わんぱくの森は、地権者の了解を得て大町小学校や地域の子供たちに利用されていましたが、2006年5月13日に開催された第3回千葉県里山フェスティバル「都市の雑木林で丸々一日里山体験コース」に参加した人達を中心にして「わんぱくの森の会」が結成され、森を次世代に残そうと活動が始められています。

活動内容は、市内で最初に地権者との協働で里山保全・再生管理が行なわれ、散策路作り・体験学習会・各種観察会・森林セラピーミニコース整備等を行なっています。また、北側に接して紙敷川が流れており、この水質改善活動も取り組んでいます。

なお、わんぱくの森はすでに市民団体により保全管理が進められておるので、今回の市民政策としては取り上げないこととします。

■ 中期計画

- ・調整池・紙敷川多自然型改修計画

わんぱくの森など斜面林の下を紙敷川が流れ、接して擁壁で囲まれた雨水調整池があります。紙敷川は、源流が北総線大町駅付近で周囲に湧水もあり水量は豊富ですが、雑排水の混入で水質は悪くなっています。「わんぱくの森の会」では水質改善の取り組みを始めていますが、湧水を保全し周囲の斜面林と連続性を保ちながら紙敷川を多自然型に改修し、エコアップを計ります。

2-5-7 うしろ谷津・大野調節池等「支線軸」

大野町2丁目のうしろ谷津は、水田はすでにほとんど埋め立てられ、4箇所の事業所と資材置き場等が設けられていますが、谷津下流部の大野調節池からの谷津全体の眺めは大町公園にも匹敵する景観を呈しています。

谷津中央には、3面張りの水路に改修されているが、湧水も見られ大野調節池を経て梨風苑の中央水路に流れています。

梨風苑は風地域区になっており、中央には水路敷き幅3.5mに、幅1.5m～2.0mの3面張り水路が流れています。この水路は梨風苑を過ぎると暗渠になり雨水調整池「こざと公園」を経て大柏川に注いでいます。北側の斜面林はすでに保全緑地になっており、一定の保全管理が行なわれています。

「こざと公園」は、土地区画整理事業による雨水調整池を公園として利用しており、すでに護岸も土護岸から自然石により改修がなされて、一定の景観的落ち着きも見られるようになっています。また、池内は葦や蓮が茂り鳥類の観察場となっています。

■ 短期計画

- ・ 大野調節池自然環境再生・創出計画-政策提案参照
- ・ こざと公園保全管理マニュアル作成計画-政策提言参照

■ 中期計画

- ・ うしろ谷津自然環境再生・創出計画-政策提案参照
- ・ 梨風苑及び周辺緑地のまちづくり計画-政策提案参照
- ・ 梨風苑中央水路の改修計画-政策提言参照